

## 神の暦

アミール・ツアルファティ

- キリストとイスラエルの祝祭日 -

<https://youtu.be/qwffmyRtfmk>

今晚のメッセージのタイトルは『神の暦』『神の暦 -キリストとイスラエルの祝祭日-』理解すべき大事なこと、私たちが今から理解しようとする事は、世界のための神の救いの計画が、いかに規定されたかという事、それがすでに決められ、形成されていたという事です。2,500~2,600年前に。失礼しました。実際には、ほぼ3,500年前です。私はいつもイザヤ書46章からメッセージを始めるのが好きです。

**わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。』と言う。」(イザヤ 46章8節から10節)**

神は、ご自分の計画を宣言する事を大変好まれます。時には、神はそれらを現実に文章で宣言され、時には、それらを隠されます。隠しているのではなく、神は、実際には、皆さんに示しておられるんです。過去にあった「何か」が、将来的には「別の何か」を反映しているんです。それが神の御言葉の美しさです。「旧約(聖書)」は「新約(聖書)」において明らかにされ、「新約(聖書)」は「旧約(聖書)」のうちに隠されています。それらは、相伴うものです。イエスが、「書いてあることは、必ず全部 成就する」と言われる時は、いつでもイエスは旧約聖書の事を語っておられます。預言書に書いてある事は、「必ず」全部、成就する。残念ながら、書いてある事、つまり私たちが学び、調べるように指示されている事を参考にする代わりに、人々は書かれていないもの、もっと素敵で、たぶんもっと格好いいものを参考にするのが好きなんですね。私たちのクリスチャンとしての「退屈な」歩みを、もう少し興味深いものにしてくれるものを。そうして、彼らは奇妙な理論や神学を思いつくんです。最近では、「ブラッド・ムーン(月食)」とか、シュミータ(安息年)などといった、いろいろなものに襲われました。もう10月に入りましたが、私たちは、まだここにいます。私の意見では、仮に、神が私たちに知らせたくない事があるなら、私たちは知るべきではありません。聖書は申命記29章29節で言っています。

**隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし、現わされたことは、永遠に、私たちと私たちの子孫のものであり、私たちがこのみおしえのすべてのことばを行なうためである。**

という事は、私たちは次のことを忘れてはいけません。私たちが扱うべきでない事柄があり、私たちが扱う事を主が望んでおられる事柄は、主が御言葉の中に書き記し、私たち全員に与えておられます。アーメンですか？

では、「旧約」と「新約」が、いかに相伴っているか、その美しさについてです。コロサイ人への手紙2章16節から17節で、パウロがコロサイの人々に手紙を書いて、非常に面白い事を伝えています。彼はこう言います。

**こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。(コロサイ2章16節から17節)**

「これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。」(17節) キリスト教界には、「本体」に向かうよりも、むしろ、いつも「影」に向かう傾向があります。いつも、神が「それは本物ではない」と告げられるものを保持しようとし、いいですか、歩くとき...ここにある私の影を見てください。普通の人は先に影を投じて、後からやって来ます。あなたが道を歩いている時に、太陽の光の下で影を投じていな

かったら、その時は医者に診てもらってください。でも、理解してください。日中なら、影を投じるのは自然の事です。実際、私たちが影を見るときに、…そして、影というのは、時には大きくて、堂々としていて、デッカイ事があります。しかし影は、私たちに、本体が来ようとしている事を伝えます。影は、誰かが来ようとしている事を教えてくれます。本物が来ようとしている事を。場合によっては、小さな人がとても大きな影を投じている事があります。その逆の事もありません。でも、それは重要ではありません。影は、やはり床に映っているただの形にすぎません。それがあなたに語り掛ける事はなく、それがあなたに<sup>こた</sup>応える事もなく、あなたと握手をする事もなく、あなたの話を聞く事もあります。それは、ただの影でしかありません。それがそこにあるのは、「本物」が来ようとしている事を伝えるためです。

**こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。**

面白いことに、イスラエルの主なる神は、イスラエルの民を奴隷の家、<sup>れいぞく</sup>隷属の家から連れ出し、今、砂漠の中を<sup>こた</sup>通って、彼らを導いています。そして、神が彼らを連れ出そうとされる瞬間から、神は彼らに命じられます。

「聞きなさい。暦を書き始めなさい。出エジプトの出来事は、あなたの暦の最初の月になるから。これからは、私があなたをエジプトから連れ出す間に、あなたと一緒にすることは、すべて象徴となり、毎年、あなたの手で祝われることになる。だから、準備をしながら、手早く書き留めて用意をなさい。私たちの旅は、私たちの記録にもなるから。興味深いことになるのだ」

それは神の暦であり、神は今、それを規定しておられるのです。そして、それは私たち全員を、7つの祝祭日を巡る素晴らしい旅に導きます。それらの祝祭は、すべてレビ記23章に記載されています。それら7つの祝祭は、何でしょうか？「<sup>すきごし</sup>過越の祭り」「種を入れないパンの祭り」「<sup>はつほ</sup>初穂の祭り」「七週の祭り」皆さんがペンテコステと呼ぶものです。「ペンテコステ」は「50」の意。「ラッパの祭り」「贖罪の日」「仮庵の祭り」これらは主がイスラエルの民に定められた7つの祭りで、年に一度、祝うものでした。それは彼らが毎週祝う事になっていた安息日とは別にあるものです。そこで、私はこれら7つの祭りを全部取り上げて、それらを影と本体に分解し、その最初から最後に至るまで、皆さんにキリストをお見せする事にしました。そこから何が分かるか見てみましょう。過越は、出エジプト記12章にまでさかのぼります。その子羊がどのようなものであるべきかという記述があるところです。

**あなたがたの羊は傷のない...雄でなければならない。...イスラエルの民の全集会は...それを ほふり、」**  
(出エジプト12章5節から7節)

「その血を取り、…家々の二本の門柱と、**かもいに、それをつける。**」面白くないですか？イスラエルの子らが、エジプトにいた時に主から指示されたのは、一歳の、美しく、かわいい、小さな子羊を選び、それを家に住ませる事でした。彼らはその子羊を4日間、家の中に入れて、撫でたり、餌を与えたりして可愛がります。ここには家の中でヤギを飼っている皆さんもいらっしゃいますよね？少なくとも、家の外で飼っている方はいますよね。羊を飼っている方もいるかも知れませんね。それは良くわかりませんが、一つだけ私にも分かる事があります。皆さんは、そのかわいい生き物たちに心を奪われてしまいますね。特にそれらが幼くて、小さくて、可愛らしい場合には。そして4日後に、彼らはその動物を殺す事になっていました。注目してください。その動物を殺すんです。何の罪もない動物、何も間違った事をしていない動物を。そして、ヒソブの枝を取って、その血に浸し、彼らの家の二本の門柱にその血を振りかけます。

さて、興味深い事に、私たちは御使いが降りてきた事を知っています。その御使いはエジプトに降りてきました。神はその御使いに、どういう指示を与えられたのでしょうか？「その血を見たら、その家を過ぎ越しなさい。その家の長子を殺してはいけない」つまり、唯一の基準は、「ユダヤ人を見たら」とか「イスラエル人を見たら」とか「ハンサムな人を見たら」とか、そういうものではありませんでした。それは「二本の門柱

に血が振りかけられているのを見たら」というものでした。言い換えるなら、もしもエジプト人が、何をしなければいけないかを耳にして、エジプト人が自分の家の二本の門柱に血を塗っていたら、彼らはその裁きを免れていたんです。なぜなら、契約の箱においても、神の目は、… 2つのケルビムの目は、いつも「贖いのふた」に注がれているからです。血が振りかけられる所に。神の目は、罪のない子羊の血を通す事で、あなたを裁きと死から、本当に解放する事が出来たのです。エジプト人であっても、イスラエル人であっても。面白いのは、ヨハネの福音書1章29節を見ると、… 思い出してください。それは傷のない、1歳の子羊でなければなりませんでしたね。

**その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、…神の小羊。』(ヨハネ1:29)**

彼は「見よ、ユダの獅子」と言う事も出来たでしょう。他にいろんな事が言えたはずですが。しかし、彼がイエスの中に見たのは、ちょうど過越が来る頃に、すべてのユダヤ人の思いの中にあっただであろう事でした。なお、パウロがイエスのことを「私たちの過越（の子羊）」と呼んだのは、そのためです。

**(ヨハネは) 言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』**

そのため、第1コリント5章7節で、パウロは言っています。

**私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。」(第1コリント5章7節)**

あなたの心の門柱に塗られたキリストの血は、裁きがあなたを跳び越し、あなたの上に下らないようにさせます。それゆえに、あなたは死なないのです。お分かりですか？とても単純な事です。3,500年前にイスラエルの民に与えられたものが、今日のみなさん全員に適用されるのです。裁きを過ぎ越させるのは、血なのです。そういうわけで、その「神の小羊」を殺した直後、エジプトから出て、荒野に入って行き始めた時、彼らは旅を始める前に、食べ物を必要としています。ニューヨーク・スタイルの美味しいベーグルを作っている時間はありませんでした。イーストを入れて、生地が膨らむのを待って、素敵なパンを焼いている時間はありませんでした。彼らが持っていたのは小麦粉と水だけで、それを混ぜ合わせて、オープンに乗せるしかありませんでした。そして彼らは、生地が膨らまないように、その生地を文字通りに、突き刺さなければなりませんでした。そして、それを置いて全体を突き刺すと、縞模様が見えてきて、突き刺した跡が見えてきます。種を入れないパン、マッツアは、そういう形状なんです。

**この月の十五日は、主の、種を入れないパンの祭りである。七日間、あなたがたは種を入れないパンを食べなければならない。」(レビ記23章6節から9節)**

面白いですね。7日間です。7日間というのは、そのパンにはパン種がない事を知るのに必要な長さを示しています。それを検査しなければなりません。そこに間違いなくパン種が入っていないと判断するのに十分な時間が必要です。それは、第一コリント5章7節につながります。「…古いパン種を取り除きなさい。」(第1コリント5章7節)パン種は、罪の象徴です。

**新しい粉のかたまりのままでいるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。(第1コリント5章7節)**

私たちが罪を赦される時、私たちはパン種のないものになるのです。実際、第1コリント5章8節には、こう書かれています。

**ですから、私たちは、古いパン種を用いたり、悪意と不正のパン種を用いたりしないで、パン種のはいらない、純粋で真実なパンで、祭りをしようではありませんか。」(第1コリント5章8節)**

興味深いのは、過越しというのは、イエスが殺され、その血が塗られる事で、種を入れないパンはイエスの罪のない人生を語っているのです。イエスがここにおられたのは、一週間や十日ではなく、三年間でした。すべての人が、彼には本当に罪がなかった事を知るのに十分な時間がありました。ピラトでさえも、イエスが何も悪い事をしていない事を知っていました。ですから、イエスは過越であるだけでなく、間違いなく、種を入れないパンでもあります。だから、彼はパンを取った時に、それを裂いて言われたのです。**「取りなさい。これはあなたがたのために裂かれたわたしの体です」**種を入れないパンのことを象徴として言っておられます。ご自分の体そのものとしてではなく、少なくとも、ここでは、私たちはキリストの体を食べている訳ではありません。そして、非常に興味深い事に、レビ記23章には、こう書かれています。

**(あなたがたは)収穫の初穂の束を祭司のところに持って来る。...祭司は安息日の翌日、それを揺り動かさなければならぬ。」**(レビ23章10節から14節)

面白いと思いませんか？安息日の翌日です。ですから過越しが火曜日に行われた場合、安息日が来るまで待ちます。そして日曜日に、その束を持ってくるのです。過越しが金曜日に行われた場合は、安息日を待ち、そして日曜日に。それは、いつも日曜日で、安息日の翌日だったんです。面白いです。安息日の翌日。それは日曜日とも呼ばれません。ヘブライ語では「日曜日」という呼び方はしません。それは異教の名前です。日曜日は、太陽の日。月曜日は、月の日。私たちは、第1日、第2日、第3日、第4日と呼んでいます。第4日、第5日、第6日。それが無いのは、安息日であるシャバットだけです。それは、「わざをやめる」という意味だからです。しかし、安息日の翌日は、いつも週の初めの日、日曜日です。面白いのですが、マタイの福音書28章で**「さて、安息日が終わって、…」**ほら、新約聖書にも全く同じ言葉が使われています。

**「さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、…」**彼らが墓を見に来ると、「御使いは...言った。...  
『ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。』」  
(マタイ28章1節、6節)

だから聖書は、第1コリント15章20節で、こう言っているのです。

**「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」**  
(第1コリント15章20節)

イエスは「初穂」でした。そして、イエスの復活は週のどの日でなければなりませんでしたが？安息日の後の最初の日。皆さんは、それを何と呼びますか？日曜日です。まあ！だから、日曜日に主の日を祝ってもいいんです。イエスがすべての事を成就されているのがわかるから、面白いですね。過越の小羊である事から、罪のない者であること、捧げ物となり、その後、安息日の翌日に初穂として復活する事まで。

それから、もちろん七週の祭りがやってきます。聖書はレビ記23章で、こう述べています。

**「あなたがたは、安息日の翌日から、すなわち奉献物の束を持って来た日から、満七週間が終わるまでを数える。」**(レビ記 23章15節から23節)

ここで理解すべき事があります。人々はブラッド・ムーン(月食)だとか、テトラッドだとか、何やかや言います。聖書は、あなたに何かを数え始めて欲しかったら、聖書は、それを数えるように命じます。あなたが特定の現象や、特定の時代について調べる事を聖書が望み、あなたがそうしなければならないなら、聖書はあなたに、そう命じます。ですから、安息日を7回数えなければなりません。1, 2, 3, 4... 何日間でしょう？ $7 \times 7 = 49$ 日。それから彼は言います。**「五十日を数え...」**(レビ23章16節)と言う事は、50日目に、**「その日、あなたがたは聖なる会合を召集する。」**(レビ23章21節)すごい。ユダヤ教の伝統では、イスラエルの子らがエジプトからはるかシナイ山まで歩くのに50日かかったとされています。彼らが信じるところでは、主がイスラエルの民に律法を与えられた時、ちなみに、これはユダヤ教のタルムードに記されてい

るのですが、律法が来ただけでなく、舌の形をした炎も、それに伴って来ました。ユダヤ教のタルムードの至る所に書かれています。面白い事に、ユダヤ人は律法が与えられたのは、その祭りの日であったと信じているんです。初穂の週の最初の日から数えて50日後です。使徒の働き2章1節から4節「**五旬節の日になって、…**」そして、良きユダヤ人が…。ところで皆さんに思い出して欲しいのですが、イエスはユダヤ人でした。私は意味もなくそう言っているのではありません。7日前の事です。ワシントンDCで、オバマ大統領の牧師だったジェレマイア・ライト師が、多くのイスラム系アメリカ人の前に立って、「イエスはパレスチナ人だった」と言ったんです。ホントです。彼は言ったんです。「イエスはパレスチナ人だった」と。つまりアラブ人だった、と。あのう、失礼ですけど、私の聖書には、そんな事は書いてありません。私の聖書は、彼はユダヤ人ただけでなく、神がユダヤ人に定められた事は、すべて、イエスご自身が成就された、と言っています。そこで、使徒の働き2章です。(使徒2章1節から4節)「**みなが一所に集まっていた。**」(came together in one accord)ホンダのCMではありませんよ。「**すると突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、…**」そして言うまでもなく、「**…みなが聖霊に満たされ**」た。(使徒2章1節から4節)いいですか、あの日、ユダヤ人が律法が降りてきたのを祝っている日に、その日に神がもたらされたのは何でしょう？聖霊です。勘違いしないでください。皆さんは、歴史上、ユダヤ人が以前に誰も享受した事のないものを享受しているのです。皆さん方は、みんな、聖霊を内に宿していますね。そうだと良いんですが。そう願います。なぜなら、あなたは、聖霊を宿していなければ、キリストを見る事は出来ないからです。あなたは彼が来て、去っていくのを見るでしょう。あなたは、ともしびに油を入れていないあの娘たちなんです。旧約聖書では、聖霊は決して誰かを満たす事はありませんでした。そして、その人がまた、聖霊をもって証印を押される事ありませんでした。聖書によると、旧約聖書では聖霊が人に臨んでいたと書かれています。そして、聖霊がその人から離れる事もありました。だからこそ、ダビデ王は、詩篇51篇で主に懇願したのです。ナタンが来て、基本的に、ダビデにこう言っていました。「あなたは罪人です！あなたがバテ・シェバにしたことをご覧なさい」するとダビデは言いました。「そのとおり、私は罪人です」彼は神に祈りながら、言いました。「あなたの聖霊を、私から取り去らないでください」彼は、それもあり得る事を知っていたからです。それが興味深い事に、今、初めて、聖霊が降りて来ているのです。集団に。そしてあなたは、それによって証印を押されているのです。「証印を押す」という意味が分かりますか？誰にも開けられません。誰も開ける事を許されないのです。証印を押されているんです。なぜ興味深いかと言うと…、レビの部族の人たち、つまりレビ人たちが分け隔てられていたのは、なぜだと思いますか？神は、どうしてマナセやユダではなく、レビを選んだのでしょうか？それは、モーセがシナイ山から降りてくるまでの間、イスラエルの子らは待ちきれずに、あの金の子牛を作り始めたんです。そのゾツとするような異教の儀式に参加しなかったのは、レビ族だけでした。そのために神は、彼らを分け隔てられたのです。神は、それを尊重されたんです。聖書は出エジプト記32章で、こう言っています。

**レビ族は、モーセのことばどおりに行なった。」(出エジプト32章28節)**

しかし、その金の子牛のせいでイスラエルの民に降りかかった裁きは…。そのために…「**その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた**」使徒の働き2章で聖霊が来られた時との類似は、興味深いと思いませんか？

**そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。**

**(使徒2章41節)**

聖書は言っています。文字は殺し、御霊は生かす。(第2コリント3章6節)アーメンですか？書かれていたものと、後になって成就するため、本体となるために来たものとの間には、見事な類似点がある事が分かります。影に戻ってはいけません。引き続き、本体に注目してください。ここで面白い事があります。イエスは過越を成就しました。それから、種なしパン、初穂、そして、もちろん聖霊が来て、ペンテコステが成就しました。これらは春の祝祭です。それから長い期間を経て、秋の祝祭がやってきます。それはイエスの時代から、私たちのこの時代まで経過しなければならなかった時間です。

さあ、ここからワクワクするところです。用意はいいですか？さあ、ラッパの祭りの到来です。ラッパの祭りは、ユダヤ暦の中で最も風変わりな奇妙な祭りです。「来て、ラッパを吹いて、帰りなさい。」

**ついで主はモーセに告げて仰せられた。『イスラエル人に告げて言え。第七月の第一日は、あなたがたの全き休みの日、ラッパを吹き鳴らして記念する聖なる会合である。』(レビ23章23節から34節)**

ラッパを吹き鳴らす？聖なる会合？何のために？何のためにラッパを吹き鳴らすのか？何のために？どういう事なのか？そこで民数記10章のラッパの話に引き戻ります。モーセは主から指示を与えられました。

**『銀のラッパを二本作らせよ。それを打ち物作りとし、あなたはそれで会衆を召集し、また宿営を出発させなければならない。』(民数記10章1節から10節)**

こういう意味です。“準備をしなさい。会衆を召集しなさい。準備をしなさい。出発の用意をしなさい。戦いの用意をしなさい。何ごとか、あるいは誰かを迎える準備をしなさい。”それは、そういう意味だったのです。というわけで、ラッパにどういう意味があるか理解できましたね。しかし、なぜ二本なのでしょう？なぜ銀なのでしょう？なぜ銀なのかを説明しましょう。銀は貴金属ですが、完璧ではありません。金とは違います。ラッパは、私たちがすでに理解しているように、警告するためのものです。なぜ二本なのか？うーん、とても興味深いです。それはマタイの福音書24章にまで戻ります。イエスは、終わりの時のしるしについて尋ねた弟子たちに言われました。

**「いちじくの木から、たとえを学びなさい。」(マタイ24章32節から33節)**

イエスは、世界で起こる出来事や世界的な大災害の事について語っている最中、途中で止まって、こう言われます。「いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります」お分かりですか？イエスは「聞きなさい。いちじくの木からたとえを学びなさい」と言われています。“それはたとえだ。わたしはいちじくの木の話をしているのではない。いちじくの木は、何かに似ているのだ。”そして、私がすぐにいちじくの木について調べると、ヨエル書1章にありました。

**一つの国民がわたしの国に攻め上った。力強く、数えきれない国民だ。その歯は雄獅子の歯、それには雄獅子のきばがある。それはわたしのぶどうの木を荒れすたれさせ、わたしのいちじくの木を引き裂き、…  
(ヨエル1章6節から7節)**

イスラエルは神のいちじくの木です。

**わたしはイスラエルを、荒野のぶどうのように見、あなたがたの先祖を、いちじくの木の新なりの実のように見ていた。(ホセア9章10節)**

それで、エゼキエル書で、彼がイスラエルの再生について語る時、それはまさしく、いちじくの木が生き返る事について、イエスが預言されたとおりです。

**わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。  
(エゼキエル36章24節)**

面白いですね。あの牧師は群衆に向かって言ったんです。彼は、「イエスはパレスチナ人だった」と言っただけでなく、「その地の元々の所有者は、パレスチナ人だった」と言ったんです。彼がどういう聖書を読んでいるのか知りませんが、しかし私の聖書には、神がこう言われたと書いてあります。「わたしは彼らを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、彼らの地に連れて行く」お分かりですか？とても単純です。神が、そうされたんです。それを受け入れられないなら、神にお話してください。ホロコーストから祖父母を連れて来たのは、私ではありません。神が彼らを生き残らせ、神が彼らをはるばる連れて来られたのです。

私たちがイスラエルの地に戻って来るのを助けてくれた国はありません。私たちが核の脅威に対処するのを助けてくれた国はありませんでした。私たちは、イラクの原子炉を自分たちで破壊しに行くしかありませんでした。アメリカは私たちを非難し、1981年に私たちに制裁を加えました。私たちは自分で自分の面倒を見なければならず、2007年にシリアの原子炉を破壊しました。どの国も助けに来てくれませんでした。「独力でやれ」と言われました。今では、イラクやシリアの「ISIS」が核兵器を持っていない事を、みんなが私たちに感謝しています。しかしイスラエルの再生は、すでにエゼキエルによって預言されていただけでなく、イエスご自身によっても預言されていました。

では、なぜ二本のラッパなのか、私が信じるポイントです。イザヤ書43章10節によると、イスラエルは神の証人です。神はイザヤ書43章で「**あなたがたはわたしの証人(である)**」と言われます。「あなたがたはわたしの証人である」と主はイスラエルの民に言われました。面白いですね。彼らは神の証人なんです。ヴィクトリア女王が特別な親しい相談役に「神が存在する証拠を一つ出して」と尋ねた時、彼がこう言ったのも不思議はありません。「一語で証拠を一つ申しませう。イスラエルです。彼らがまだ存在しているなら、神がいるはずです。」イスラエルは神の証人です。だからこそ、敵は私たちを滅ぼしたがるのです。なぜなら、敵は常に証拠を隠滅して、証人を殺そうとするからです。教会も同じです。教会の誕生は使徒の働きにあります。使徒1章8節には何と書かれていますか？以下のように書いてあります。使徒1章8節、手元の聖書からお読みします。はっきりと分かります。

**しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、…わたしの証人となります。(使徒1章8節)**

お分かりのように、イスラエルは神の証人であり、教会は神の証人です。二つだけです。この世界における神の証人です。それは教会とイスラエルであり、だからこそ、私たちはいつも一緒に苦しむのです。一緒に楽しむだけではないのです。イスラエルを滅ぼしたがる人は、たいてい反キリスト教徒です。本当です。それは相伴<sup>あいともな</sup>うのです。そして第1コリント15章では

**聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。」(第1コリント15章51節から52節)**

いいですか、皆さん？ラッパは特定の出来事に関連しています。ここでは私たちの携挙が、「終わりのラッパ」の時に起こると書かれています。私は、1948年にイスラエルがその地で再び誕生して以来、神は初めて、イスラエルと教会を共に用いておられると思っています。世界に告げる(二本の)ラッパとして。「用意をしなさい。何かが起こるから。誰かが来ようとしているから」それは面白いんです。なぜなら、終わりのラッパで、私たちはここからいなくなりますから。私が言ったのではありませんよ。聖書にそう書いてあるんです。ですから、携挙はラッパに関係があるんです。そして、ラッパの祭りに関連があります。そして、私が信じるに、ラッパの祭りは、私たちにとっては特定のある一日ではなくて、一連の出来事であり、ラッパが連続して吹き鳴らされるんです。そして最後のラッパが鳴る時に、私たちは、ここから出て行きます。アーメン。私たちは今、そういう時代に生きています。イスラエルは孤立しています。イスラエルが生まれて以来、初めて完全に孤立しています。ロシアは私たちの味方ではなく、私たちに敵対しています。ヨーロッパも私たちの味方ではなく、私たちに敵対しています。アメリカ(当時はオバマ政権)は、少なくともその政権は私たちの味方ではなくて、敵対しています。私たちのそばには誰もいません。誰も。それは預言されていました。それは予告されていました。神が、すべての栄光を受けるためです。アーメン？そして第六番目の最も悲劇的なもの、贖罪の日がやってきます。聖書ではレビ記23章に、こう書いてあります。「...この第七月の十日は贖罪の日、…あなたがたは身を戒めて、…」(レビ23章26節から33節)「身を戒める」とは、どういう事でしょうか？自分が無力である事を、本当に理解する事です。あなたは何も出来ません。自分を救う事は出来ません。ユダヤ人は、それを断食として理解しました。聖書は、断食しなさいと言いたい時は、「断食しなさい」と言います。しかし、ここでは「断食」とは言っていません。「身を戒める」なのです。興味深い事に、ゼカリヤが告げています。イエスが戻ってくる日が来て、

…彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、  
(ゼカリヤ12章10節)

ユダヤ人たちが、キリスト・イエスが雲に乗って戻って来られて、その足でオリーブ山に立つのを見る時、白い馬に乗って、私たちを伴って来られる時、アーメンですか？もしもし？その時、大患難を残った最後の三分の一の者たちは、ゼカリヤ13章によると、彼らは彼を仰ぎ見、嘆き、泣き、彼らは悔い改め、そして救われます。それがローマ人への手紙11章に書いてある事です。

**こうして、イスラエルは みな救われる」(ローマ11章26節)**

それから、もちろん仮庵の祭りです。

**…この第七月の十五日には、七日間にわたる主の仮庵の祭りが始まる。(レビ23章34節)**

イスラエルの暦の中で、一番長くて楽しい祭りです。私たちはそれを祝ったばかりです。ゼカリヤ書14章には、終わりの時代になっても、私達は皆、それを祝い続ける、と書かれています。

**エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。(ゼカリヤ14章16節から21節)**

凄くないですか？私たちは皆、行く事になります。なぜなら、主の幕屋がその民と共にあるからです。主の幕屋。主は、その民の賛美を住まいとされます。では、7つの祭り、それらは成就されたのでしょうか？過越の祭りはもちろん、主の磔刑(十字架)を語っています。種を入れないパンの祭りは、主の罪のない人生を語っています。過去です。七週の祭り、ペンテコステ。聖霊の降臨、教会の誕生は、もう過ぎた事です。ラッパの祭りは、私が信じるには、1948年以来、イスラエルと教会が存在していて、私たちがラッパなのです。それは今です。贖罪の日とは、キリストの再臨。イスラエルの民族的救済です。それは未来の事です。そして言うまでもなく、仮庵の祭りは千年王国の事を語っています。それは主の幕屋が民とともにある時で、それはもちろん未来の事です。

何が欠けているのでしょうか？欠けているのは、携挙の正確なタイミングです。私は全部お話ししました。でも、携挙の正確な時期については話しませんでした。なぜですか？なぜなら、私たちはその日もその時間も知るべきではないからです。しかし、一つだけ分かっている事があります。それは何ですか？もうすぐだという事です。本当に、本当に、もうすぐです。皆さんが理解しなければならない事があります。神はイスラエルの祝祭において、ご自分の贖いの計画を定められました。全世界にです。イスラエルのためだけではなくて。イスラエルは、神が全世界に向けて御言葉を伝えるための手段に過ぎませんでした。神は今、救いの青写真を全世界に向けて示しています。イエスが主であると告白する人、イエスがあなたの罪のために死に、葬られ、そして復活した事、そう信じる人は全員、救われます。アーメン？福音について言えば、そういう事です。神のご計画、贖いの計画があります。そして、この悪魔の欺きの計画があります。“あなたは良い人になりさえすればいい”と言ってきます。良い事をしないといけない。たとえ何があるうと、あなたは神の国に入る。私が世界統一宗教の台頭について教えた時、皆さんはここにいましたね。神の計画からあなたを引き離す唯一のものは、選択です。それは自由な選択です。決めるのは、あなた次第です。あなたが神の贖いの計画を選ぶのか、悪魔の欺きの計画に陥るのか。聖書は言っています。

**不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。(第2テサロニケ2章9節から12節)**

すべては不義と欺瞞に満ちているのです。どうなるかと言うと、滅びる人たちは、「**なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。**」いいですか、あなたが真理への愛を受け入れなければ、あなたは滅びるのです。でも、それはあなたの選択です。あなたが受け入れない事を選ぶならば、当然、「**それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。**」この世であなたに喜びを与えてくれるものは何ですか？神を愛する事、神に仕える事ですか？それとも、世に浸る事ですか？外出し、飲んで、パーティーをして、踊る事？この世界で本当にあなたの心を躍らせるものは何ですか？それは世ですか？それとも、神に仕える事ですか？それはあなたの仕事ですか？それとも、御父の仕事ですか？今のあなたの本当の生きがいは何ですか？私たちが終わりの日の最終時刻に近づくにつれて？なぜなら、申し上げますが、勝利はすでに決定しているからです。聖書は第2テサロニケ2章7節から8節で、こう述べています。

**不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者〔聖霊〕があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。その時になると、不法の人が現われますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。(第2テサロニケ2章7節から8節)**

イエスは戻ってこられます。そして彼は、敵が用意しようとしているものを、すべて滅ぼされます。ですから、勝利はすでに得られています。イエスは、すでに勝者の側におられます。私たちは最初から終わりを知っています。さあ、その選択は私たちのものです。勝利の側につくか、それとも、敗者の側につくか。一時的なものでしかない今の世の快樂を楽しむか、それとも、これが終わりの時刻だと知って、ひざまづいて祈るか。今は伝える時です。祈る時です。今は愛し、気遣う時です。それが大事なんです。主が来られるまで、私たちは御父の仕事をしなければなりません。私たちは従事しなければなりません。制しなければなりません。消極的になってはいけません。聖書は問いかけます。「あなたは、どんなラッパなのか？」第1コリント14章8節です。覚えてますか？私たちはラッパなんです。

**また、ラッパがもし、はっきりしない音を出したら、だれが戦闘の準備をするでしょう。**

**(第1コリント14章8節)**

いいですか。皆さんは、みんなラッパです。私たちはラッパなのです。私たちは、ラッパの祭りの時代に生きています。終わりのラッパが鳴る時、主は私たちを連れに来てくださいます。しかし、ラッパがはっきりしない音を出すなら、誰が準備をするのでしょうか？私たちが一度永遠に到達してしまえば、もう戻る事は出来ません。物事を修正する事は出来ないのです。イエスが驚くべきたとえ話の中で語った事を思い出してください。ラザロの話、覚えていますか？貧しい人と王の話。物事を修正する事は出来ないんです。それまでなんです。ですから、物事を正したいなら、今がその時です。後からではなくて。私たちがそうする事は大事です。なぜなら、後はありませんから。

C.S.ルイスがその著書の中で書いた事をもって締めくくりたいと思います。彼は、私の大好きなクリスチャン作家の一人です。彼はとても深い事を書いています。C.S.ルイスは…。画面に出せるかわかりませんが、彼はとても深い事を書きました。彼が言った事は、要するに、「私たちが終わりを迎えるにあたって、神に向かってこのように言う人がいる。『みこころのままに』それから、最期に、神が彼らに向かってこう言われる者たちがいる。『あなたの思いのままに』」お分かりですか？もし、あなたが神を拒む事を選ぶならば、神は「よし、それなら、あなたの思いのままになれ」と言われるのです。でも、それはあなたの意志です。それはあなたの選択です。それから、C.S.ルイスは言います。「地獄にいる者は皆、それを選ぶのだ。その自己選択なしでは、地獄は存在しえない。本気で絶えず喜び〔救いの喜び〕を求める者は、決してそれを見逃す事はない。捜す者は、見つけ出し、叩く者には、開かれる」

では今晚、終わりにあたって、そして、私たちは終わりに備える事が出来ます。私は皆さんに挑戦したいと思います。世界で起きている事は、信者でない者にとっては憂慮すべき事です。世界で起きている事は、準備が出来ていない人を怖がらせるべきです。世界で起きている事は、イエスが言われたとおり、激化するばかりです。世界で起きている事は、間違いなく増大していくでしょう。地震が増し、飢饉が増し、疫

病が増し、自然災害が増します。戦争が増し、戦争の噂が増し、民族間の対立が増し、国家間の対立が増します。そして、イエスは言われました。「これは始まりに過ぎない」私たちは、空想的な出来事の話をするためにここにいるわけではありません。私たちがここにいるのは、今、世界がどうなっているのかを話すためです。

そして問題は、「今夜、あなたの心はどこにあるのか？」あなたには用意が来ていますか？あなたの創造主に会う用意は来ていますか？あなたは理解していますか？イエスがあなたを見ておられて、彼に言える事は、2つあります。「よくやった。良い忠実なしもべだ」あるいは、「わたしは、あなたを知らない」これらが、イエスが言う事の出来る2つの事で、イエスが何を言うかは、あなた次第なのです。なぜなら、それは、主があなたにこの世で与えられた時間の中で、あなたが何をし、何を選んだかにかかっていますから。私は…、ここ数年、大変な状況になってきて以来、私は、主との関係を正す機会を人々に提供する事なく一度でもメッセージを終える事は出来ません。申し上げますよ、皆さん。もし、私があなたに悔い改めの機会を与えなかったら、あなたの血の責任は私にあるのです。エゼキエルは33章で、そう言っています。彼は言います。「私はあなたがたに告げなければならない」「それをどうするかは、あなたの問題です」「しかし、私はあなたに言わなければならない」聖書は言います。「耳のある者は、御霊の言うことを聞きなさい」という事で、今晚、私は招待いたします。私たちは見てきました。神の言葉は成就しています。神は完璧です。神は遅すぎる事も、早すぎる事ありません。神はすべてを定められました。イエスが来られて、すべてを成就されました。神は愛です。神は、あなたが救われる事を望んでおられます。神は、あなたに地獄を選んで欲しくないのです。神は、申命記30章で、こう言っておられます。

「いのちを選びなさい！わたしはいのちと死をあなたの前に置く。いのちを選びなさい！」



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.05.08 (Fri)